



*『ジャイモン』ネパール語で「主(神)を讃美しましょう」の意

ネパール再訪の印象

昨年11月1～11日の日程でネパールを4年ぶりに再訪した。

ネパールを語る時、第一に自然環境の豊かさである。北に目を向ければ、どこまでも脈々と続く白き峰々が見える、神々しいばかりのそびゆる氷壁でできたヒマラヤン・ジャイアンツ(標高8,000m超の巨峰)を重鎮に据えた巨大な山塊である。またアンナプルナ・レンジに位置する、ネパール第一の観光都市ポカラには、日本の琵琶湖に似た発音のフェワ湖がある。湖面に映るマチャブチャレイ、アンナプルナ山群、そしてサランコットの展望台から間近に眺めるモルゲンロートに映える白き峰々の美しさにことばを失う。さらに南には亜熱帯のジャングルであるチトワン国立公園がある。象の背中に揺られながらのジャングル・サファリではワニやトラなど猛獣と遭遇するスリリングな体験が味わえる。地元のホテルでデング熱やマラリヤを気にしながら蚊帳の中で眠ることになった。日本では味わえないことばかりだ。バナナ、りんご、みかん、いちご等、フルーツも豊富である。

それとは対照的に社会環境は非常に低いと言わざるを得ない。首都カトマンズを車で移動する際、町の中心部を円で囲むリングロードを利用し、途中、何度か橋を渡った。そこに流れる川は、ヒンズー教世界における聖なる川「ガンジス川」の上流域に当たる。橋に近づくと汚臭が鼻を突いた。川では生活のための水汲み、洗濯、そして排泄までも何と同じ場所で行われていた。あまりにもひどい。また、水道設備が殆ど普及していない。井戸や川の水、雨水を利用する。衛生面の改善が必要だ。さらに、電力の供給が非常に不安定である。停電は首都カトマンズにおいても日常茶飯事であり、滞在中、何度も経験した。ソーラーシステムも役立つだろう。インフラ整備が急務である。

教育面に関しても、多分にカースト制度の影響が見られる。ハイ・カーストであれば教育を受けられるが、ロー・カーストでは難しい。農村地帯を散策した。就学児たちが学校に行く時間であるにもかかわらず、野良仕事に駆り出されていた。公立学校の校舎はあまりにもひどい。室内には電灯すらない。これでは識字率も、教育水準も向上しない。

世界有数の自然環境を有しながら文化教育水準は非常に低い状態にある。そこにもあまりにも大きな落差を感じた。4年間のブランクがあったが、町の変化や発展はあまり感じられなかった。4年前、カトマンズ市内にODAにより日本の最新の信号機が設置された。今回、目にしたのは赤黄青灯が消え埃を被って虚しく立ち尽くすのみの信号機であった。援助が無意味になっている。

その様な中、唯一の希望としてキリスト教信仰に根ざしたNHAで学んでいる生徒たちの瞳は美しく、就学意欲も十分であった。彼らの内には希望の灯火が灯っている。将来のネパールの発展の可能性を担っているのは実に彼らである。NHAで学ぶ彼らは、日本の若者が失いつつある将来に対する希望を持って国を豊かさせ良くしていこうとする熱き思いと勉学に対する強い渴きに満ちていた。



BFN正会員 竹田有志

目次:

ネパール再訪の印象	1
2011年度におけるNHAの方針	2
里親からプレゼントが子供たちに届く	2
NHA訪問記 ソーラーシステム 特別講座	3
NHA訪問記 一日教師	3
NHA訪問記 初めて日本講座を開催	3
アリーナ・マハリヤンの日常生活	4
質問箱「NPOとは何ですか」	5
ネパール豆知識 SLC試験について	5
2010年度決算報告	6
支援者状況 2010年度 (4月～3月)	6
新規に支援される子供たち ('10年10月～'11年3月)	6

ハイライト:

2011年におけるNHAの方針
NHA校長ピター・マハリヤン
(2ページに写真を掲載)

NHA訪問記
(3ページに写真を掲載)

アリーナ・マハリヤンの日常生活
(4ページに写真を掲載)

2010年度決算報告
(6ページに掲載)

NPO法人 ブリッジズ・フォー・ネパール (BFN)

事務局: 〒569-0811 大阪府高槻市東五百住町3丁目1番4号 (鬼頭宅)

Tel/Fax 072-695-0513

URL: <http://www.npo-bfn.org>

「2011年度におけるNHAの方針」

人は人生においてそれぞれの希望と大志を抱きます。それに向けて計画し忠実に歩む人々が成功するのです。NHAとして、次の様な今年度の方針を持っています。

1. 施設の整備

施設の十分な整備がなければ、より良い教育を行うことはほぼ不可能です。これは、NHAでの課題の一つです。なぜなら、受け入れ体制が厳しい状況にも関わらず、生徒の入学希望が増えているからです。生徒の収容人数は、現在ある教室数では約740人が限界です。しかし今年度、新しく50人の生徒が加わる予定です。そのため、今年度に向けて少なくとも2教室の増築が必要でした。感謝なことに NHAはBFNとの協力関係が与えられています。BFNはかなりの数の生徒の学費の面だけでなく、施設の整備の面でもNHAを続けて支援してくださっています。

BFNは現在の校舎に、十分な大きさの2つの教室を増築するための経済支援をしてくださり、私の希望を叶える確かな助けとなりました。現在その2教室は建設中です。



2. 質の高い教育

どんな学校でも最終的な目標は、その学校の生徒たちに質の高い教育を施すことです。NHAもこの点において例外ではありません。NHAは質の高い教育に到達することに成功していますが、更なる高い目標に向けて一生懸命働く所存です。より高い質の教育をするために、教員たちが中心的な役割を果たしますので、質の高い経験のある教員を雇用したいと望んでいます。

さらに、同様に、質の高い教育を強化するためには、生徒たちを励まし、やる気を起こさせることもまた重要な要素なのです。教員を訓練することもまた必要不可欠ですので、NHAでは今学期少なくとも2回の教員研修を行う予定にしております。

3. SLC試験結果の更なる改善

NHAを卒業した後、生徒たちはSLCという学習能力測定の試験を受けます。どの学校もSLC試験でより良い結果を出したいと努力をしています。NHAはSLC試験において非常によい結果を出しています。私はSLC試験において特等級での合格を生徒全員に保証したいと願っています。しかし、この望みを達成することはそれほど簡単なことではありません。学校と家庭での良い学習環境と合わせて適切な計画、教員たちの努力、生徒たちの忍耐力が必要不可欠です。そのために、10学年生に対し年間を通じ朝7時から9時まで、英語・数学・科学などの主要教科について補習授業を行っています。学習が苦手な生徒と得意な生徒の2グループに分けて、習熟度別に扱うことによって目標達成を確かなものとします。

NHAだけではこれらの目的を達成することはできません。全ての関係団体のご支援とご提言が不可欠です。そこで皆様にごできる限りの方法で、これらの目的を達成するためにご支援していただきたいと思っております。私どもNHAを継続してご支援してくださっているBFNの皆様には特別に感謝しております。支援者の皆様にご感謝申し上げます。

NHA 校長 ピーター マハリヤン

里親からのプレゼントが子供たちに届く

生徒たちはプレゼントを受け取り非常に喜んでいました。保護者の方々もとても感謝されてきました。支援者の皆様ぜひお礼の気持ちをお伝えくださいと言っておられます。それらのプレゼントは生徒たちの学習にとっても役立ちます。NHAの81名の生徒たちを学費においてご支援して下さるだけでなく、役に立つプレゼントもして下さり本当に感謝しております。

PEN代表 ビル・バドル



NHA訪問記

2010年11月8日

「NHAソーラーシステム特別講座(サイエンスクラス)」

ネパールは年間の積算日射量の平均が、8000MJ/m²を超え、平均で5000MJ/m²程度の日本と比較すると、約1.6倍もの太陽の恩恵を受けています。この国の非常に不安定な電力事情を考えると、ソーラーシステムは大変有益なものであると考えられます。

今回、NHAに訪問し、8年生の生徒とネパールの先生たちに向けて、ソーラーシステムの実物を使ったサイエンスクラスを実施しました。

まず、簡単なクイズを行い、基本的な知識を伝えました。その時に、天地万物の創造主(聖書の教える神)のことも併せて伝えました。

・電気とその働き ・太陽光での発電方法 ・太陽電池の原料 ・電圧と蓄電

次に、実際の太陽光パネルでの発電を体験してもらいました。

今後、NHAで使用できる電源としてソーラーシステムを実用化するために、パネルの増設、インバーターの設置を進めていく予定です。
(平岡真実 記)



「一日教師」

「スライムって知ってる？」

その日、日本より随分小さな薄暗い教室で、8年生20人ほどの生徒たちに、工作の授業をした。生徒たちの答えは予想通り「ノー」。よしよし。

前でスライムの実物を見せる。軽いどよめきが起こり、驚くほど目がキラキラしている。「約束が2つ。食べないこと。これで遊んだ後は手を洗うこと。守れる？」「イエス！」「では、始めましょう。」

水に洗濯のりを混ぜて、絵の具で着色。ホウ砂水を混ぜれば出来上がり。実に簡単な工作だ。しかし、無邪気な笑顔が教室に満ちる。

スライムができた生徒たちは次々にビローンと垂らして遊んでいる。ふと見ると、机や床がスライムでべちょべちょに。校長のピーター先生が笑っているのいいでしょう。

後日、NHAから立派な感謝状をいただいた。科目名は「アート」になっていた。
(藤原恵理也 記)



初めて日本講座を開催！！ ～40名の子供たちが参加～

9,10学年を対象に、念願の日本講座を開催した。子供たちはBFNのことは知っているも、支援している日本についてよく知らないのは悲しいことだ。日本について知ってもらえば、もっと友好も深まるだろうとNHAと相談したら意外に早く実現した。

残念ながら予定した日は休日であったので自由参加になった。それでも午前10時、子供たちがクシクシホテルの会議室に集合した。教室と違いホテルでの授業だ。全員少し緊張気味だ。

パワーポイントで日本の地理、自然、教育、文化、科学を紹介した。特に相撲を動画で見せたらとても喜んで笑っていた。最後に戦争と原爆を紹介した。戦争がいかに悲惨なものであるかも知って欲しかった。大人並みの1時間半の講義、そのうえ日本語、韓国語、ネパール語の通訳入りだ。それでも静かに楽しく聞いてくれたのに感動した。

授業が終わって昼食を子供たちと食べ、感想を聞いたりした。何よりこれが一番嬉しかったに違いない。交流の輪を広げる日本講座を次も行おうぞ！！
(岡本安司 記)



アリーナ・マハリヤンの日常生活

子供の名前 :アリーナ マハリヤン

学 年:5年生

お父さんの名前:ラクマー マハリヤン

お父さんの仕事:レンガ積職人

お母さんお名前:プルナマヤ マハリヤン

お母さんの仕事:飲食店の従業員



アリーナは、NHAの5年生です。兄弟は三人で姉と兄がいます。2010年6月10日にBFNの奨学生に選ばれました。幼稚園のクラスからNHAにきて勉強しています。とても利口な生徒で、良く高得点を取り、クラスでも成績の良い生徒の一人です。アリーナは、とても早起きです。いつも5時に起きて7時に寝ます。朝早く起きて母親の手伝いを良くします。学校は10時から4時までです。帰宅するとおやつを食べて少しテレビを観ます。それから外へ出て元気に遊びます。少し遊んでから、家で一人で宿題をします。

アリーナは、両親にとっても従順な娘です。BFN奨学生になって喜んでいきます。時々手紙や贈り物をいただきますが、それがとてもうれしくて、さらに勉強を頑張っています。



母親プルナマヤ・マハリヤンの話では、アリーナは、小さい頃からとても賢かったそうです。新しいことを学ぶのが大好きで、飲み込みがとても速いです。いつも宿題を忘れることなくきちんとし、家ではお手伝いも良くします。服を自分で洗ったり、時には料理も手伝います。時々友人の家に泊まりに行ったりもします。



母親プルナマヤ・マハリヤンの話では、アリーナは、小さい頃からとても賢かったそうです。新しいことを学ぶのが大好きで、飲み込みがとても速いです。いつも宿題を忘れることなくきちんとし、家ではお手伝いも良くします。服を自分で洗ったり、時には料理も手伝います。時々友人の家に泊まりに行ったりもします。毎週土曜日、9時から10時、マチェガウン・キリスト集会の日曜学校に行きます。メッセージを良く聞き、日曜学校の暗誦聖句を覚えます。日曜学校が好きです。両親はクリスチャンです。両親はBFNの奨学金に感謝しています。

アリーナの母親は、次のように感謝を述べています。「娘に奨学金を下さり、BFNにとっても感謝しています。娘を支援して下さる方を、神様が祝福して下さいますように。その方の人生がいつも成功しますように。お力添え、ありがとうございます。ご支援がなければ、娘はこの様なよい学校で学ぶ機会はなかったことでしょう。神様があなた様を通して私たちに祝福してくださり、今、娘は、喜んでNHAで学んでいます。主人は、レンガ積職人として働いています。私たちは貧しく、娘を学校にやる十分なお金がありません。今、あなた様のご親切のおかげでそれが出来るようになりました。神様に感謝し、あなた様にも感謝しています。神様がいつもあなた様を祝福して下さいように」

アリーナの担任の先生はこう話します。「アリーナは、気立てのいいとても良い生徒で、静かで先生の話をよく聞きます。クラスでは協力的で、言うことを良く聞きます。教えられることをすぐに吸収し、誠実にそれを行います。彼女は一学期、とてもいい成績でした。クラスで素晴らしい生徒の一人です。」





質問箱

質問:「NPO法人BFNとありますが、NGOと違うのですか、また会社の法人や財団法人とどのように違うのですか」

回答:「NPO」とはNon Profit Organizationの略語で「非営利組織」つまり、利益を目的とせず使命を第一にする組織のことで。正しくは特定非営利活動法人といえます。1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災のボランティア活動がきっかけとなって1998年にNPO法が制定されました。

「特定」とあるのは、NPO法に活動が17種類に限定されており、その中のどれかに特定されるからです。BFNは、国際協力の活動の寄与を目的としています。

「法人」とは、「法が定める人」という意味で、人の集まりや一定の財産を法律上、個人と同じように権利・義務の主体として扱うことをいいます。人の集まりとしては株式会社、社団法人などがあり、財産の集まりとして財団法人などがあります。NPO法人は、社団法人の一種として、NPO法に基づいて都道府県または内閣府の認証を受けて設立された法人のことをいいます。

「NGO」とはNon Governmental Organizationsの略語で「非政府組織」のことで。日本国の場合、国際協力に携わる組織や政府が海外で行う活動の補完的な役割をしている大きな組織のことを意味します。

BFNも分野としては国際協力です。しかし、規模など小さいため、日本ではNPO法人として登録しています。

NPOで一番大切なのは、ミッション(使命)です。しかし、それだけでなくパッション(情熱)とビジョン(将来像)も大切にしながら活動していきます。

ネパール豆知識 (これって知ってた?)

SLC試験は超難関?

(1)ネパールには小学校から留年(落第)制度がある。

ネパールの教育制度は小学校5年間、中学校3年間、高等学校2年間で、6歳で入学して16歳で高等学校卒業ということになる。公立学校と私立学校とがあり、公立小学校は無料(5年生まで)である。各学校内全学年終了テストに合格しなければ、進級できない。進級の条件は、全科目で32点以上の成績で、出席率が75%以上でなければならない。各学年の就学者数は、上級になるに従い減少し、10学年(高校2年)では、小学1年生入学者の10数%である。減少率は、1学年から2学年に進級する時に最も多く、全体の半数近くの子供が1学年で退学しているデータがある。しかし、近年、就学者数は順調に増加しているようであるが、高学年になるに従い減少する傾向は変わらない。初等教育(5学年)の終了率(1学年入学者が小学校を卒業できる割合)は42%(1997年度)である。この数値を引き上げるための計画が策定されている。

(2)SLC試験について

ネパールの10学年修了生(全学年終了試験合格者)は、日本の高等学校教育修了に相当する。ネパール全国の学校は10学年を修了するとSLC(School Leaving Certification:中等教育修了資格)試験の受験資格が与えられる。

このSLC試験は、3月初めに全国一斉に統一問題で実施され高校卒業認定試験と大学(カレッジ)入学試験を兼ねている。SLC試験は8科目800点満点で、各科目32点以上、合計点256点以上で合格(pass)となる。

合計得点により次の4段階の区分評価が与えられる。 特等級: 640点(平均80点)以上、1等級: 639~480点(平均79~60点)、2等級: 479~360点(平均59~45点)、合格級: 359~256点(平均44~32点)。

SLC合格者には、カレッジ(学齢的には日本の高2、高3に相当)、更に続いて大学(学部、大学院)への高等教育進学が開かれている。カレッジは、大学の前段階として専門コースに分かれ、SLC試験結果の上位から、科学、工学、数学、英語、ビジネス(コンピュータ、ホテルマネジメント、社会科学)など多彩なコースがある。SLC試験結果と面接でカレッジ入学となる。科学、工学コースは特等級、数学、英語コースは1等級以上の成績でないと入学できない。大学は、SLC試験とカレッジでの成績で決まる。大学の人気の学部は医学部、工学部で、医学部は科学コースの卒業生のみが受験でき、相当の好成績が要求される。

ネパール全国の合格者は、表に示すように公立と私立とは大きく異なる。SLC不合格者は、次年度に再受験が認められているが、諦めてしまう生徒がかなりいる。SLC不合格者は高校卒業証明書は、発行されるが、企業への就職や大学等高等教育への進学にはSLC合格が必須条件である。

2002年度	公立	私立	合計
受験者	123,960人	28,373人	152,333人
合格者	26,403人	21,084人	47,487人
合格率	21.36 %	74.31 %	31.17 %

SLC試験とカレッジでの成績で決まる。大学の人気の学部は医学部、工学部で、医学部は科学コースの卒業生のみが受験でき、相当の好成績が要求される。

ネパール全国の合格者は、表に示すように公立と私立とは大きく異なる。SLC不合格者は、次年度に再受験が認められているが、諦めてしまう生徒がかなりいる。SLC不合格者は高校卒業証明書は、発行されるが、企業への就職や大学等高等教育への進学にはSLC合格が必須条件である。

(参考文献: 畠 博之著 ネパールの被抑圧者集団の教育問題 学分社)

2010年度 決算報告

2010年4月1日～2011年3月31日

収支決算書

(単位 円)

(収入の部)		(支出の部)			
科目	収入額	科目	支出額		
入会金・会費	正会員入会金	40,000	事業費	未就学児童への支援事業	1,644,395
	正会員会費	483,000		教育機関への支援事業	1,996,870
	賛助会員会費	2,270,000		医療支援事業	0
寄付金	スポット支援金	941,977		日本における啓蒙活動事業	152,752
雑収入	雑収入	7,845	事務費	会費収納管理費(会費引落手数料)	197,290
当期収入合計(A)		3,742,822		郵送料・通信費	18,730
前期繰越金	賛助会員会費繰越金	53,508		消耗品費	44,100
	スポット支援金繰越金	729,480		その他	6,720
	事務費繰越金	285,496		支出合計(C)	
	長期ビジョン積立金	504,500	当期収支差額(A) - (C)		△318,035
収入合計(B)		5,315,806	次期繰越収支差額(B) - (C)		1,254,949

貸借対照表

2011年3月31日

(単位 円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	0
現金	35,053	【固定負債】	0
預貯金		負債の部合計	0
三井住友銀行	209,426	純資産の部	
ゆうちょ銀行(振替)	556,470	賛助会費繰越金	82,385
ゆうちょ銀行(定額)	454,000	スポット支援繰越金	606,143
【固定資産】	0	事務費繰越金	111,921
		長期ビジョン積立金	454,500
		純資産の部合計	1,254,949
資産の部合計	1,254,949	負債・純資産の部合計	1,254,949

支援者状況

2010年度 (2010年4月～2011年3月)

2011年3月31日現在

区分	人数・件数	金額	備考
正会員	16名	入会金 10,000円	
		月額 3,000円	
賛助会員	81名	月額 2,500円	
スポット支援	53件	941,977円	

賛助会員、スポット支援募集中です。ネパールの子供たちのために皆様の暖かいご支援をお願いいたします。

新規に支援される子供たち 2010年度 (2010年10月～2011年3月)

2011年3月31日現在

氏名	学年・性別	氏名	学年・性別	氏名	学年・性別
ブラチク シャハ	男 8年生	ラシミラ タパ	女 2年生	プレラナ マハリヤン	女 6年生
アニヤリ シレスタ	女 4年生	カリナ マリ	女 2年生	アクリチ ラジタラ	女 3年生